

## 日高の獣医学用語について

門別診療所 園田 要

私事ですが、本年定年退職となり、これが最後のお話になります。組合員の皆様にはお世話になりました。今回は、私が新人獣医師の頃に戸惑った、生産地独特のウマの病名や用語について、教科書的病名を付記して、懐かしく語りたいと思います。

繁殖シーズン牧場主が「若先生よ、このばば馬全然フケ来ないんだ。歳でセッターレ、カモでガフだが、うちのカマドウマだから何とかトメたいんだ。バクダン打ったらどうだべ」

私・・・？「ガフ？カモ？カマドウマ？何言っているのか分からん」。

セッターレは若馬でもたまにいますが、多くは老齢で痩せたウマで背中が落ちたもの。反対語はセムシ。カモは外陰部、肛門が落ち込んだ状態。ガフは気腫といい、膣内や子宮内に空気が入り、子宮内膜炎の原因となる。

治療法は陰部縫合、膣前庭形成術。カマドウマは牧場経営を支えた功労馬。トメるは受胎させること。バクダンは黄体退行作用のある、プロスタグランジンF2 $\alpha$ 、通称PG。語源は、あまりの効果の高さに驚いた、静内の牧場主の命名。

「サカゴだ。大至急来てくれ」の電話。産道に手を入れると、前脚と頭が上を向いていた。これは正常で子馬がまだ十分に回転しない状態。本当の逆子は後足、臀部が産道にあるもので、なるべく早く娩出させる。

「子馬が元気なく乳の飲みも悪い。ションベンズマリかフンズマリだと思ふ。ガニクソは出た。オウダン、キンニクショウ、ライオン病かも？」ションベンズマリは尿閉症で、自律神経系の不調、膀胱破裂などが原因。フンズマリは胎便停滞。ガニクソは堅い胎便。胎便は胎児の消化管分泌物、飲み込んだ羊水などでできている。オウダンは新生児溶血症で親子の血液型不適合の貧血。キンニ

クショウは白筋症でビタミンEとセレンの不足が原因。ライオン病はパーカー、新生児不適應症候群。

「子馬がハツジョウゲリだ。アシマガリで、ともはカワナガレ。デベソもある」。発情下痢は母馬の発情に伴うホルモンの影響説あり。今は食糞や採食が原因説有力。前肢のアシマガリは、X脚、肢軸異常症。カワナガレは後肢の肢軸異常症で、くの字に両後肢が曲がっている。デベソは閉鎖不全の臍帯輪に小腸が入り込んでいるもの。

その他の用語として、

エビ（屈腱炎。重症はオオエビ）

オムシ（たてがみ、尾根部の昆虫刺激などのアレルギー性皮膚炎）

ガク（ぐいっぽ、さく癖）

カケス（出っ歯。下顎短小。鯉口）

カマス（カケスの反対。上顎短小）

ガマ（硬口蓋の腫れ）

ガンベ（かさぶた又は皮）

クサカブレ（鼻、上唇の皮膚炎）

コズミ（筋肉痛）

スクミ（筋肉炎で筋肉が硬くなり歩様異常）

スナノボリ（白線病、白帯病）

ソエ（管骨骨膜炎）

ツユカブレ（繋ぎの皮膚炎）

テッコウ（第二指関節炎で骨増生あるもの）

ナイラ（腺疫。日高では腺疫菌以外の菌で下顎腫れるのもいう）

バカニク（贅性肉芽）ノドナリ（喉頭片麻痺、DDSPなど）

ヒジクソ（肘頭の腫瘤。肘頭滑液囊炎）

フナユスリ（熊癖）

へモ（麻痺性筋色素尿症、Tying up syndrome）

ヤセバ（狼歯。本来は上顎第一白歯だった）

ヤマウマ（全く馴致してない馬）

ヤマキズ（浅い切り傷、擦り傷）

昔から聞いていた用語を並べてみましたが、今でも使っている言葉も多く、症状をよく表しているものもあります。